

2023 年度 活動報告

I. 高槻の高齢社会をよくする会

[総会]

出席者も少し増え、コロナ以前の活気が戻りつつあると感じられました。

会員数 191 名中、出席者 32 名、委任状 114 名ですべての議案が可決されました。

[運営委員会]

11 回実施しました。16 名の運営委員が毎月第 3 土曜日に集まり、様々なことを話し合いました。

大きな行事はまだ無理ながら、会員の交流の機会が確保できるような行事を計画し実施することができました。

[理事会]

理事会は 3 回（4、11、2 月）開催しました。

つどいの家「はむろ」の今後の運営について考える機会を持ちました。

[行事・活動報告]

吉原暁子

コロナの影響から少しずつ解放され、100%までにはいかないけれど、少しは元どおりの暮らしや活動ができるようになりつつあることを感じた 1 年でした。

9 月の朗読会、11 月の映画会、2 月の勉強会と会員の参加も少しずつ増えて、本来のよくする会の行事のにぎわいがもどってきたことを喜ぶことができました。しかし、一方で行事に興味はあり、参加したいと思うけれど健康上、家族のことなど不都合な条件が重なり、思うように参加ができないという会員の状況を考えると課題の多い年であったと考えています。

[井戸端会]

《南平台ブロック》

担当 中越優・洋子、山本洋子、山本美子

日時 毎月第 3 火曜日 13:30 ～15:30

場所 南平台集会所(近藤医院の前)

毎月案内のチラシを南平台の会員さんに配布しています。男性 3～4 名、女性 6～8 名の参加があり、近況を報告しそれぞれの関心のある話題や地域情報を楽しく交換しています。

毎回南平台 4 丁目にお住いの石井道人さんに高槻の地誌や歴史についてお話していただいています。土偶、灯籠、石碑、墓、など高槻の地名や古墳跡などその由来や歴史な

どがわかると、街歩きが楽しくなります。

また、ウクレレ伴奏で歌い、NHK の懐かしいラジオ体操などで心身をほぐしています。参加者も少しずつ多くなり、世話係も 4 人になりました。

《塚原ブロック》

担当 吉田和子、松井史枝、遠矢享子

日時 毎月第 1 木曜日 13 : 30 ~ 15 : 30

場所 塚原東公園集会所

春には、いつも気にかけて下さっていても、井戸端会に出席できない（松浦絢子さん）に寄せ書きの色紙を皆で書き届けてもらいました。

夏は猛暑の為中止。

秋には、介護老人施設の説明を、「はむろ」のケアマネジャーさんから解かりやすく話して頂きました。

冬には、家にある“思い出のボタン”を使って、クリスマスツリーや正月用の水引飾りを作りました。

皆様とのおしゃべりからうまれてくる話題は大変貴重・・・、と感じた一年でした

〔ありんこの会〕

担当 戒脇美奈子、中越優・洋子、吉田和子

一昨年まではコロナ禍に影響されることなく活動してきました。昨年は遥々天橋立近くまで墓参の付き添いに行った例がありました。しかし、従来よく利用しておられた方々が施設入所、介護保険認定を受けられたり、亡くなられたりして、活動回数や時間が激減しているのが実状です。利用者さんは勿論ですが、支援者も高齢化しつつあります。しかし「高槻の高齢社会をよくする会」の理念のひとつ「住み慣れた地域の中で在宅の仲間と親しく交流して生きられること」のための「ありんこの会」です。日常のちょっとしたお困りごとを、気軽に相談くだされば嬉しいです。また、決して無理なことはお願いしませので支援者の方を募っています。

〔ほっこりカフェ氷室への支援〕

報告 中越 優

毎月第 4 金曜日の 13 : 30 から 15 : 30、「高槻バプテスト教会」をお借りしてお茶や美味しいお菓子を頂いて、参加者による近況報告やテーマに沿ってのお話しをしていただきます。とても印象深い話や思い出で盛り上がります。

その後、つどいの家「はむろ」での経験を生かしたゲーム、輪投げやテーブルカーリング、夏にはスイカ割りなどを楽しみます。「ナゾナゾ」などで頭の体操をしたり、ストレッチなどで身体をほぐします。最後は、唱歌等みんなが知っている歌を唄って終わります。

高槻ではコロナの影響でカフェをしている所が少ない中、16～21名と参加者はたくさん来られて盛況です。認知症カフェでありながら認知症という表現はしないで、ほっこりとした緩やかで居心地の良い雰囲気づくりを心掛けているため、皆さんはとても楽しみにして参加されます。

「ほっこりカフェ氷室」は本来午前中に集まって、昼食の献立を確認し皆で買い物をし、皆で食事を作って一緒に食べる活動をしていました。コロナで中断したままになっていますが、出来るだけ早く再開したいと話合っています。

「よくする会」会員からは竹中、中越、松井、安井、吉原が参加しています。

[認知症を理解し地域で支える会への支援]

報告 中越 優

団体会員として現在4名の会員(竹中、中越、安井、吉原)が毎月大西クリニックで行われる定例会に参加して、行事の企画運営に関わっています。認知症の人と家族のための情報交流・相談会は予定通り7、11、3月と3回、通算で35回まで開催しました。

新規相談者を中心に3～4グループに分けてそれぞれ3名位で十分に時間を取って相談できます。支援者側は会長の大西先生を始め、高槻の介護施設や大学の認知症専門家や看護師、ケアマネ、認知症家族、ボランティアなど15名と相談者より多く、その配慮され行き届いた支援の経験により、終わるころには笑顔になって帰られる参加者が印象的です。

参加人数はコロナ以前の参加者40名位よりは少ないですが、少しずつ増やしてく予定です。また、従来のような勉強会や高槻の認知症関係者の研修会の企画を検討しています。

[よくする会だより]

担当 石田千賀子

第76号(7月)、第77号(2月)を発行して皆様にお届けしました。

[ホームページ]

アドレス <http://www.hamuro.org>

つどいの家「はむろ」に関しては施設長の黒柳「よくする会」に関しては中越が担当し、新しい情報を伝えています。

[2023年度 ご寄付者名(敬称略)]

青木苗子・雨森恂子・岩田久枝・内野昌子・榎邦子・大間暁子・志水紀代子・
白井邦子・副島則子・高橋多恵・中越洋子・波里信枝・平田富子・前川寿・
松浦絢子・山口茂子・山本洋子・吉田静子(五十音順)

その他多くの匿名の方々。物品のご寄付も頂いております。本当にありがとうございます。ありがとうございました。「よくする会」の活動が皆さまのご寄付により支えられている事を心より感謝申し上げます。

Ⅱ. つどいの家「はむろ」活動報告

[事業報告]

黒柳厚雄

2023年5月に新型コロナも5類感染症に移行していく中でつどいの家「はむろ」はマスク、消毒、換気、職員の抗原検査等の感染防止対策を継続しつつ、利用者様の、「体を動かす」、「歌を歌う」、「おしゃべりを楽しむ」などの活動も広めてまいりました。

また職員の資質向上のため講師を招いて認知症勉強会等もしてまいりました。

運営面では労働人口の減少する中、介護職離れもあり、離職者の補充がままならない状態でした。必要な労働力が確保できず、やむ得ず1日の利用者人数を制限せざるを得ない状態が続いてしまいました。

そんな中、演芸や利用者のお話相手、お台所仕事等で協力いただいたボランティアの皆様には深く感謝申し上げます。

2024年度は、3年に一度の介護報酬の改定の年でもあります、私共にとってはこの改定に大きな期待を寄せていた訳ですが、中小介護事業者にとっては収益面で厳しい改定になっており、厳しさは続くと判断致します。

職員確保が非常に難しい中、いかに安定性と持続性を維持していくかが求められる考えられます、そのためにも「担い手の育成」を重点課題として進めて行きたいと思えます。

[地域密着型通所介護（デイサービス）]

西村照美

2020年1月より国内で初めてコロナ感染者が確認され2023年5月には5類感染症に移行したコロナウイルス。

この3年間コロナに翻弄される年月でした。そんな中、利用者さんには感染対策にご協力していただきながら楽しく日々過ごして頂けるようスタッフ一同企画を立案し活動に取り組んできました。

現在は待ちに待った「演芸ボランティア」さんも復活しました。ウクレレ、ギター、三味線、利用者さんも楽器を使い演奏しながら歌を歌う参加型のリクレーション。

まだまだマスクをつけてのリクレーションは継続していますが、楽しい時間を過ごして頂いています。「歌」というのは利用者さんがいつも以上に声を出し、笑顔いっぱい私たちスタッフも嬉しくなります。

今年度も利用者さんに安全に安心して楽しんで頂けるようにスタッフ一同取り組んでまいります。

[居宅介護支援(ケアプランセンター)]

不破直子

ケアマネジャーは2名ですが、数十倍の笑顔と元気パワーを利用者の方々にご提供しています。

「利用者さん・ご家族の気持ちを大切に…」をモットーに全ての人が、地域で・自宅で暮らしていくために、私たちは一人の人間として、一専門職として、創意工夫しながら満足のいく人生の「寄り添い人」として支援していきます。

[ボランティア]

岡本かえ子

コロナが少し落ち着き、5類に移行する頃より、抗原検査や検温、感染予防に気を付けながら登録ボランティアの方々が来て下さることになりました。

スタッフにもゆとりができるようになり、より良い介護に繋がっていることに感謝申し上げます。

本年度はウクレレ会？さん、だるまさん、ギターの中野さん、楽謡会さん、歌いましょう♪の山本さん、朗読の丸山さん、南平台舞踊同好会の皆様、本当にありがとうございました。

利用者の方もボランティアさんを毎回楽しみにされています。ボランティアの皆様が来て下さることでプログラム内容も増え、スタッフの負担も減りボランティアさんの有難さを再認識しました。

ご依頼のお電話をさせて頂いた時「はむろに行くのを待っていたのよ」と言って下さる方もおられ、本当に嬉しいお言葉でした。

台所のお手伝いには元職員の方や有志の方が来て下さり、お茶の提供だけでなく利用者の方とも交流して下さり、スタッフ一同助けられています。

本年度はより多くのボランティアさんが来て下さることを望んでいます。

[スタッフ会議]

管理者、スタッフ、デイ、ナース、ケアマネ、プログラムミーティングを各月一回程度、メニュー会議「いきいき会」と年1回程度昼食メニューの検討
その他、コロナ対策委員会、送迎ミーティングなどを随時行いました。